

世界の子どもたち、若者たちを育てる



(上) 2005年グローバルコンテストで日本に集まった地域代表6カ国のKWNメンバー
(右) ビデオを製作する子どもたち



松下電器産業(株)コーポレートコミュニケーション本部
社会文化グループ 東京社会文化チーム
チームリーダー 相沢俊行

松下電器グループでは創業以来「社会の公器」として、事業を通じて社会に貢献するとともに、企業市民として国内外で様々な社会貢献活動を展開しており、以下にグローバルな活動事例として、「キッド・ウィットネス・ニュース」および「パナソニックスカラシップ」の2事例を紹介する。

キッド・ウィットネス・ニュース

キッド・ウィットネス・ニュース(KWN)は、小・中学校でのビデオ制作活動を通じて子どもたちの創造性開発を支援するため、松下グループが世界各地で実施している教育支援プログラムである。参加校は最新のデジタルAV機器を使用してニュース、ドキュメンタリーなど様々な分野の作品を制作して年1回のコンテストに応募、その中から優秀作品が表彰される。

子どもたちだけで映像づくり

最初にKWNをスタートさせたのは米国で、

1988年から20年近くにわたって活動している。2002年からは日本や欧州などでも展開が始まり、2006年11月現在では、世界21カ国で510校がKWN活動に参加している。これまでに参加した児童の数は、累計9万人以上。現在も年間約1万人が参加しており、その数は年々増加している。

KWN活動は基本的に各国単位で運営されているが、2005年には、日本で開催された「愛・地球博」に合わせて、同博覧会の事業テーマである「環境」と「交流」を作品制作のテーマとして、初のKWNグローバルコンテストを開催し、世界14カ国から390校が参加した。日本での表彰式には世界各地の予選を勝ち抜いた6カ国の代表が集まり一週間の滞在期間中に交流を深めた。

学校単位で参加するKWNの教育的効果として、①ストーリーの企画から制作まで生徒の主体的な取り組みで自主性が育まれる ②撮影やインタビュー、編集など役割を分担し協力する中でチームワークが養われる ③環境問題や地域の社会問題などに関する子どもたちの意識が高まる、などの報告が現場の先生方から寄せられている。また不登校だった生徒が、KWN活動に参加したいがため学校に戻ってきたという例も報告されている。

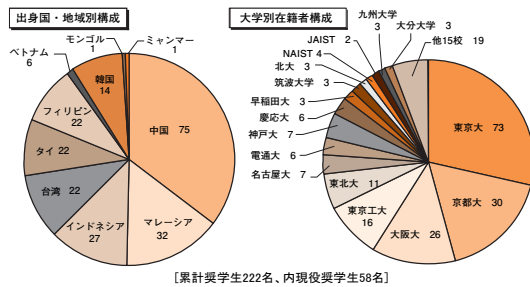
運営面では、各国で地元の教育委員会や政府関係機関と連携を取りつつ参加校を選定している。コンテスト審査では、映像専門家やジャーナリスト、教育関係者の協力を得て運営されている。

パナソニックスカラシップ

パナソニックスカラシップ制度は、松下電器の80周年記念事業の一つとして1998年に創設された。「企業は社会の公器である」という故松下幸之助創業者の意思にのっとり、アジアへの社会貢献をその目的としている。

毎年日本の大学院で学ぶ20～30名の留学生に最長3年間の支援をしているが、彼らには将来自国の発展に貢献することが求められている。現在までに累計222名を認定し支援している。

パナソニックスカラシップ奨学生



(上) パナソニックスカラシップのタイでの現地選考会
(リーダーシップなどの合宿審査)

(下) マレーシアの現地内定式

研究成果発表会、修了式など数々の活動により、日本の最先端の科学技術に触れる機会、日本の伝統文化に触れる機会なども提供している。

奨学生の中には日本学術振興会特別研究員に認定された者、電子情報学術振興会の「植之原賞」受賞者、ヤングリサーチアワード受賞者などもおり、今後の活躍が期待される。松下電器は、留学生による社会貢献を望むとともに、日本理解者を一人でも多く育成することが、現存する国家間レベルの誤解を解き世界平和を実現する第一歩にもなると信じている。

以上、松下電器グループのグローバル社会貢献活動の一端を紹介したが、社会が抱えている問題解決に貢献できているかを常に反芻し、今後も微力ながら一企業市民としての社会的使命・責任を果たしていければと考えている。

※注 科学技術分野における権威ある国際的な賞として、松下電器創業者松下幸之助の寄付を元に、1985年に創設された。独創的・飛躍的な成果を挙げ、科学技術の進歩、人類の平和と繁栄に著しく貢献した人に与えられる。授賞式典は4月に東京で天皇皇后両陛下御臨席のもと、各界来賓を招き盛大に挙行される。

国や社会に貢献できる人材を育成

この活動は純粋な社会貢献活動であり奨学生には松下に対する義務が一切なく、将来リーダーとなり自国の発展に貢献すること、日本との架け橋となることにより、松下から受けた恩恵を社会に還元することが唯一彼らの義務とされている。

アジア各国の松下現地法人が募集活動をしているが、学業成績のみならず統率力、協調性など人間性の面でも厳しい審査を受け、心身ともに健全な者が選考される。2006年度の総応募者数は2,487名でこの中から22名が選考された。

パナソニックスカラシップ制度は現地政府からも評価されており、認定式には現地政府高官、日本大使館も参画している。マレーシアのラフィード通産大臣はこの制度を「松下のマレーシア国家への重要な社会貢献活動」と高く評価され、創設以来毎年ご臨席いただき祝辞を頂戴している。

来日後は、認定式、新奨学生歓迎会から始まり、日本国際賞^{※注}授賞式参列、夏季集合研修会、地域別個人面談、エッセイコンテスト、進路相談会、

- ◆ KWN 活動
<http://panasonic.co.jp/ccd/kwn/>
- ◆ パナソニック スカラシップ社
http://www.panasonic.co.jp/scholarship/index_j.html
- ◆ 松下電器グループの社会貢献活動
<http://panasonic.co.jp/ccd/>